



発行者

学校法人聖隷学園

聖隷クリストファー大学・大学院

聖隷クリストファー大学介護福祉専門学校

聖隷クリストファー中・高等学校

聖隷クリストファー小学校

聖隷クリストファー大学附属

クリストファーこども園

〒433-8558

浜松市北区三方原町3453

電話 053(436)5311

<http://www.seirei.ac.jp>

聖句

「イエス・キリストは『永遠の救いの源』です。」

ヘブライ人への手紙 第5章7節〜10節

小学校、こども園 本年度中のIB認定に向けて協働した取り組み

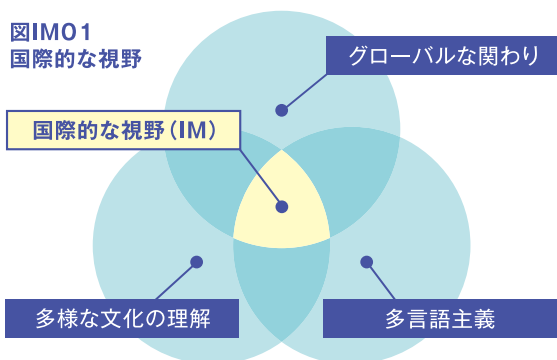
聖隷学園 国際バカロレア教育推進室 室長 モーテンJ・ヴァテン

「国際的な視野 International Mindness」(IM)を定義することは、国際バカロレア (IB) 初等教育プログラム (PYP) を私たちの学園コミュニティに導入する際に深い意義を持ちます。それは私たちの共有の教育目標への道を照らす「導きの光」として機能します。私たちの学園にとつて、「国際的な視野」は単なる言葉ではなく、世界的な視野を持ち、「文化に敏感で共感力のある個人を育てる」という私たちのコミットメント (責任) を包括する哲学です。私たちの学園固有の文脈に合わせて明確な定義を作成することで、教職員、園児、児童、そして保護者がIB PYPの原則と積極的に関わるための枠組みを提供します。それは私たちのカリキュラムの基盤となり、指導と学習のアプローチを形成



▲合同教職員研修会での話し合い

再定義した機会もありました。「国際的な視野」は主観的文脈に左右されるものであり、定義するのは困難ですが、便利なフレームワークがいくつかあります。ダイナミックで変化し続ける学園環境では、私たちなりに相応しい「国際的な視野」を定義し、発展させることを継続的に討論することが重要です。

図IM01
国際的な視野

国際バカロレア機構 (2020)

『初等教育プログラム (PYP) 学習コミュニティ』P14

聖書のことば

聖隷学園宗教主任 永井英司

アダムとエバが神への背反の罪により樂園を追放される時、神は二人に「皮の衣を作り着せた」とあります。ここに、人間の「罪を覆う」という「罪の贖い」の予型を見ることが出来ます。

神の民イスラエルは「わたしが血をあなたたちに与えたのは、祭壇の上であなたたちの命の贖いの儀式をするためである。血はその中の命によつて贖いをする(レビ17:11)」という神の言葉を解釈して、動物を「犠牲の捧げ物」として用い、罪の贖いを儀式化(祭儀化)してしまいました。

新約聖書にも、律法に倣つて「血を流すことなしには罪の赦しはありえない(ヘブライ9:22)」とありますが、「雄牛や雄山羊の血は、罪を取り除くことができない(ヘブライ10:4)」ことが、言明されています。

主イエスは御子であるにも拘わらず、自らの命を罪の贖いの供え物として捧げてくださいました。主イエスは**まがもの**ではない動物の「血」によらないで、御自身の血(ヘブライ9:12)によつて、永遠の贖いを成し遂げたのです。ここに、神の愛があります。

この愛の業により、御子イエス・キリストは「永遠の救いの源」となり、神から大祭司と呼ばれています。

TOPICS

聖隷クリストファー大学・大学院

初めての国際教育実習

聖隷クリストファー大学

こども教育福祉学科 教授 太田 雅子

初めての国際教育実習を本年9月2日から9月16日、オーストラリア・ゴールドコーストにあるインマヌエルカレッジにて実施しました。



▲担任補助として学習のサポート

この学校は幼稚園から高校までが一つのキャンパスの中にあるキリスト教主義の総合学園です。こども教育福祉学科から4名(4年2名、2年、3年)の学生が参加しました。1週目は主に講義・見学実習を行い、教育の環境や方法について知ることができました。2週目は小学校低学年、幼稚園の各クラスにおいて4日間の実習を行いました。

オーストラリアの教育は、21世紀型教育・探究学習、個々に応じた支援・指導が展開されていて、その有様を体験的に学ぶことができました。さらにホームステイを通して、英語を用いてのコミュニケーション力高め、異文化や価値の多様性を直に経験し、国際的視野を広げる絶好の機会となりました。

対面での国際交流が再開しました

~nurturing international-mindedness as future professionals~

聖隷クリストファー大学 グローバル教育推進センター

本学は6ヶ国10大学と交流協定を締結しています。2020年2月から新型コロナウイルス感染症の影響で渡航が叶わず、国際研修・実習や研究者交流はバーチャルを用いて実施してきましたが、本年2月より少しずつ対面で再開しています。

9月には4年ぶりに「シンガポールリハビリテーション研修」を開講し、学生16名と教員2名が交流協定校のシンガポール工科大学(SIT)の1週間の研修プログラムに参加



▲シンガポールリハビリテーション研修での施設見学



▲本学にてSIT学生との集合写真

しました。シンガポールの保健医療福祉に関する講義を受け、病院・施設見学でリハビリテーションの実践を体験し、また、本年7月に本学での研修に來日したSITの学生との再会を喜び合い、学び多く実りある研修となりました。

2024年2月および3月にも国際研修・実習やグローバルな視野を養うプログラムやイベントを実施します。

TOPICS

聖隷クリストファー大学介護福祉専門学校

外国人留学生の様子

聖隷クリストファー大学

介護福祉専門学校

校長 野田 由佳里

介護福祉専門学校では、開校2年目より、外国人留学生の受け入れを開始し、在学学生は8名が在籍しています。留学生教育では、学修は勿論ですが、日本で生活をする「力」をつけ、継続就労に繋がることを意識しています。教育活動においては、授業の中では、理解度、習熟度の確認、実習では言語理解のサポートを実施しています。丁寧な支援が国家試験合格率の高さに繋がっています。

また外国人留学生の多くが関係法人から奨学金を受けています。未知のウィルスの脅威の中でも、暮らしを継続できたのは、皆様のお力添えや、本校教職員の献身的な働きがあったからです。改めて感謝の気持ちで一杯です。今後とも変わらぬご指導とご理解を賜りますようお願い申し上げます。



TOPICS

中学校グローバルスクールコース

英語イマージョンおよび探究型の深化

開設2年目を迎えて

中学校グローバルスクールコース 副校長 中野 学也



▲持続可能な食糧生産について発表する7年生(中1)

中学校グローバルスクールコースがスタートして2年目となりました。クリストファー小学校に続き、建学の精神をグローバルな舞台で実践できる人物を育てることを目標に、「英語イマージョン」と「探究型の学び」を軸に2年目のプログラムを展開しています。

英語イマージョン教育の基本は、「英語を学ぶ」のではなく、「英語で学ぶ」ということに尽きると思いますが、プログラムを充実させるためには、英語を使う時間を多く設けることに加え、英語を用いる場面でより深い学びがで



▲Musicの時間に発声練習をする7年生(中1)

きるよう、母語による思考力を高めていくことが重要となります。

こうしたことから、今年度のグローバルスクールコースは、「知り、理解する力」、「思考する力」、「表現する力」、「振り返り、計画する力」といった学習スキルを、「GSC Skills」として体系化し、生徒が日々の学習の中でそれらを意識して身に付けることができるように工夫しています。このような英語イマージョンと探究型の学習を融合した学びを今後さらに充実させていきたいと思っています。

8年生(中2) ニュージーランド研修

中学校グローバルスクールコース 教諭 野原 隆成



▲現地校でバディと楽しく過ごす生徒達

9月8日〜25日、8年生(中2)の生徒11名がニュージーランドのタウンランガに海外研修に行ってきました。現地校体験では、生徒はこれまで英語イマージョンで身に付けてきた英語力を駆使し、それぞれのバディが履修している授業に毎日参加しました。工具や機械を扱ってものづくりをしたり、演劇やドラマのワンシーンを演じたりするなど、日本では体験できないような授業を受けることができた生徒もいました。また、午前中の「モーニングティー」の時間は、バディと一緒に軽食をとりながら楽しく英語で交流する貴重な機会となりました。



▲バディとのお別れ会

ニュージーランドの家庭では、子どもが家事を手伝うことは一般的です。そのため、ホームステイ先では生徒は夕食後の食器を洗うなどの家事の手伝いもしました。生徒によっては自分で朝食を作ったり、お弁当を作ったりする生徒もいました。

英語が分からないときに自分の気持ちを伝える方法を探ったり、道に迷った時に現地の人に英語で声を掛けて助けてもらったりするなど、海外研修ならではの体験の中でその都度考え、行動し、まさに「主体的な学び」ができたと思います。普段以上に生き生きとした生徒の表情がとても印象的でした。

TOPICS

聖隷クリストファー小学校

オーストラリア研修を終えて

聖隷クリストファー小学校 教諭 ヒル 貴司

学校初実施の行事であり期待と不安の入り混じった研修でしたが、一人一人がたくさんの学びを土産に帰国することができました。これも、本研修を通して全員が「何か」を得られるよう、子どもたち自身が主体的に綿密な準備を行ってきた成果だと思えます。

現地の生活では、慣れないオーストラリア英語や異文化に囲まれ、保護者はいません。食文化、生活リズム、各家庭でのルールの違いなどから、始めの数日間は、生活への順応に苦戦



▲インマニュエルカレッジメインゲート／滞在中、日本国旗を掲げてくれました。

する児童もいました。しかし、最終日には「もう少し居たい」という声も多く、研修を通し、英語力だけでなく、異文化理解やホームステイ先での自立し



▲コロビン自然保護区での学びの様子

た生活など、多くのことを学んでいました。帰国し保護者と再会した際は、はしゃぐことなく凛としたたくましい姿を見せていました。

学校に戻ってからは、自らの責任や役割を意識したり難しい課題に果敢に挑戦したりと、様々な場面で、成長した姿が見られました。今回の研修で得たものを糧に、今後も飛躍し続けてほしいと思います。

研修日程 9月2日から2週間

参加者 第6学年20名および教員4名

研修内容 ホームステイ、現地校での学校体験、環境保護区訪問など

TOPICS

聖隷クリストファー大学附属クリストファーこども園

A Tapestry of Growth: Episodes in Global Early Childhood Education



Seirei Christopher Kodomoen
Teacher : Samson Earlayne

At the Kodomoen, every day is a journey into the world of young, eager minds seeking to learn and grow through early education. Initially arriving with limited Japanese proficiency, the teacher builds trust with warm smiles and nurturing support, fostering cross-cultural friendships and trust among the children. Over time, the bonds between staff and children strengthen, evident in gestures of comfort and encouragement.

An episode of child-led inquiry-based learning emerges, where children's curiosity about marine life leads to a deep exploration of underwater ecosystems, showcasing the power of child-driven exploration. The Kodomoen promotes multicultural understanding, celebrating diverse cultures and heritage, creating a sense of community and appreciation for different traditions.

Language development is a constant theme, with children progressing from limited English to speaking sentences and singing songs in a

matter of weeks. These experiences illustrate the boundless potential of young minds, the transformative role of educators, and the magic of inclusive learning environments. The Kodomoen nurtures also a sense of global citizenship, fostering inquisitive, empathetic, and culturally aware individuals prepared for a world filled with possibilities. Kodomoen is not just a place for language acquisition but a melting pot of cultures, cultivating future global citizens with curiosity, camaraderie, and cultural celebration as their guiding lights.



日本語はこちらから
ご覧ください。





聖隷クリストファー中・高等学校

暑い夏を熱くした、聖隷クリストファー高校の部活動!!

全国高校総体(北海道) ベスト16



男子バレーボール部

世界大会 女子単独演武最優秀賞(世界1位)



少林寺拳法部

高校2年
松谷咲歩さん

NHK杯 全国大会出場



放送部

朗読部門
入選(上位60人)
テレビ
ドキュメント部門
制作奨励賞
(上位40作品)

創作テレビ
ドラマ部門
制作奨励賞
(上位20作品)

第70回 NHK杯全国高校放送コンテスト
7月27日(木)

秋季高校野球静岡県大会 ベスト4



野球部

県高校総体 準優勝



女子ソフトボール部

県高校総体 第3位



女子バレーボール部

TOPICS

聖隷クリストファー中・高等学校

2023年度入試結果と本校の進路指導

2023年度入試においては、国公立大学に25人(過年度生2人を含む)が合格することができました。なかでも、旧帝大の名古屋大学情報学部にも合格者がいました。県内の国公立大学では浜松医科大学、静岡大学、静岡県立大学、静岡文化芸術大学に合わせて5人が合格。また、私立大学では、聖隷クリストファー大学の45人をはじめとし、難関私立大学(慶應義塾・国際基督教・明治・青山学院・中央・法政・関西・関西学院・同志社・立命館)に27人(過年度生4人を含む)合格しま

聖隷クリストファー高等学校 進路指導部長 大藪 哲也

した。大学合格者の総数は、延べ356人に上っています。

各担任が生徒の状況に応じて綿密に進路指導計画を立て、粘り強く励ましながら生徒の進路実現に向けて伴走しました。また、9月からは全教員が分担し、個別に面接や学習指導を行いました。

今年も高3生が本格的な受験の季節を迎えています。生徒たちが納得のいく進路の実現を目指せるよう、引き続き教職員が一丸となり精一杯サポートしてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

TOPICS

聖隷学園



▲コンサートには大勢の方にご参加いただきました。

本学に隣接する遠州栄光教会三方原礼拝堂でジョン・カミツカ氏のピアノコンサートが5月に行われました。カミツカ氏は故ダイアナ妃が主催したチャリティ・コンサートにも出演したことがあるアメリカ在住の世界的に著名なピアニストで本学園にゆかりのある方です。今回、ヤマハ株よりコンサートグランドピアノ「S6B」をお借りしてコンサートを開催しました。コンサートには長谷川理事長が招待した本学園の園児、児童、生徒や学生を始めとし、地域の皆様を含めた多くの人々が参加しました。世

ジョン・カミツカ氏ピアノコンサート

および特別レッスンが4年ぶりに開催されました



▲ジョン・カミツカ氏



▲大学生対象特別レッスン

界で活躍するピアニストの迫力ある演奏を間近で鑑賞し、カミツカ氏から溢れ出る「本物」の音楽を体全体で感じることでできた貴重な体験となりました。小学生や中学生からは「I think it was great to see you play without looking at the keys.」それぞれの曲の雰囲気などに合ったストーリーがしっかりとあり、目を瞑ると情景が浮かんできました」といった感想がありました。

また大学社会福祉学部こども教育福祉学科2年次生、国際教育学部1年次生を対象に特別レッスンが行われ、代表者3名の演奏をもとに他の学生たちもその指導内容を共有しました。参加した学生からは、「音楽は楽しく全身で自分を表現する授業だということ子どもに伝えていきたい。」といった感想がありました。また来年も学園でコンサートが実施される予定ですので、多くの皆様のご来場をお待ちしております。

『三方原サミット』防災・交通安全等の連携した取り組み

三方原サミットは、三方原地区における聖隷グループ各施設の代表者・関係者が一堂に会し、共通する課題について話し合い、今後協調を図っていくように進めていくことを趣旨としています。今回、防災と交通安全の取り組みを紹介いたします。

防災では、大規模地震発生時、近隣の福祉・医療施設への支援を想定し、大学5号館7階に三方原地区（三方原サミット）災害対策本部を設置し、本学園を拠点として協力体制を図ります。2014年度から毎年継続してトラ

このような、三方原サミットでの取り組みを継続し、各施設間で無理のない範囲で、良い協力関係・人間関係をつくり協調して改善を図っていきます。

報収集訓練を行い防災時の共助に繋がっています。また近年は、大雨等の気象災害にも協力して対応できるよう、近隣の水害ハザードマップを作成し、訓練内容を拡充させています。

交通安全では、教育・保健・医療・福祉

三方原サミット施設周辺の水害ハザードマップ

【2017年11月、各施設担当者・浜松市危機管理課との意見交換(2017.9.8)を基に作成いたしました。】
水が溢れそうな危険箇所はありますが、大きな被害を及ぼす地区ではないとのことでした。



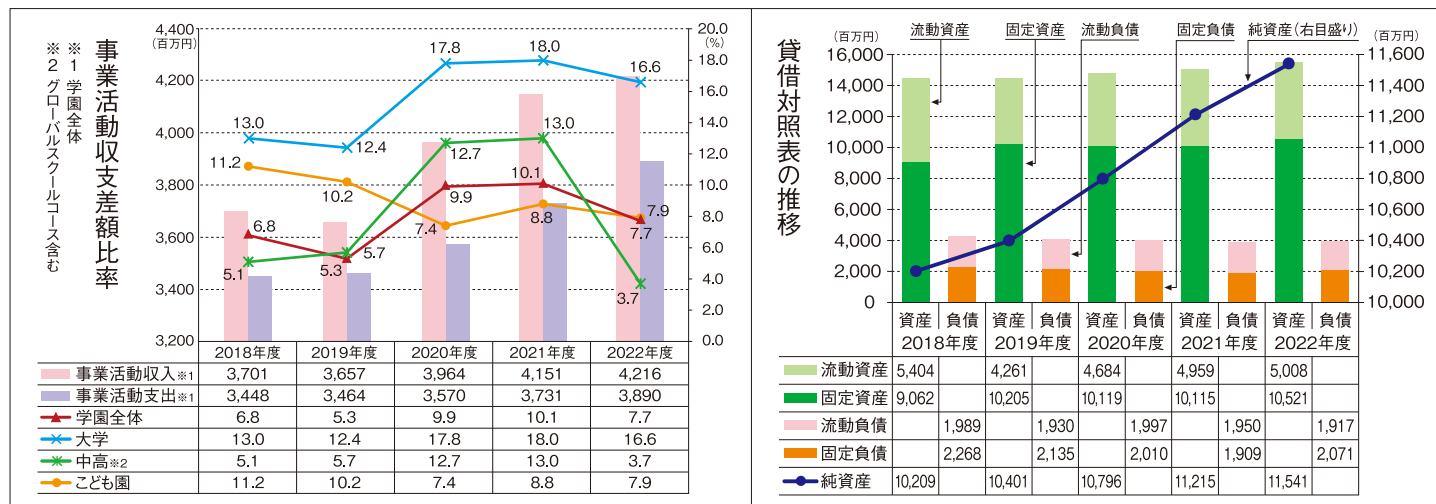
2022年度決算における財務状況および2023年度予算の概要

◆2022年度決算について

1. 学生・生徒・児童・園児数は高等学校入学者増、小学校学年進行に伴い、前年度から102名増加し、学園全体で3,179名となりました。定員充足率は学園全体で98.7%(対前年度2.3ポイント増)となりました。
2. 学校法人の事業は中長期経営計画に基づいて推進しており、2022年度の財務状況は学園全体の収支(事業活動収支差額)がプラス7.7%(3億2620万円)と計画を上回って改善しております。(大学法人の全国平均値は7.2%です。)

※事業活動収支差額は損益計算書の当期利益にあたります。なお、経常収支差額は、プラス7.6%です。

3. 2022年度末の総資産155億2916万円に対し、有利子負債は16億9531万円となりました。純資産額についても3億2620万円増となり、学園新規事業用財源も26億8340万円確保できる見通しとなりました。



各学校の状況

2022年度は聖隷学園ソフトボール場整備工事を行いました。移転用地購入費、造成工事、クラブハウス建築等総額4億7049万円、資金面では自己資金に加え、長期借入金3億3590万円を充当しました。このほか、学生生徒達の学修機会を安全・安心に確保できるよう、ICT環境整備やエアコン取替などの教育保育環境充実を行いました。

1. 大学の収支は安定した状況を継続しております。2022年度は、国際教育学部開設準備として700万円、学生の通学の利便性の向上として駐車場造成工事3330万円、AV機器増設など1514万円、また継続的に行なっている教室等エアコン取替工事835万円、LED照明交換工事867万円、トイレ改修工事など行いました。次年度以降も学修環境整備を計画的に行っていきます。
2. 専門学校は、今後も入学者の確保に努めてまいります。
3. 中・高等学校は、ICT環境整備1495万円、エアコン室外機取替工事3762万円など、教育環境の改善を図りました。また、中学校グローバルスクールコースは、小学校からの進学者に外部からの入学者を迎え15名でスタートしました。
4. 小学校は、学年進行に伴い児童数も増加し、収支差額は対前年度2088万円増となりました。次年度以降も児童数が増加しますので、さらに改善していく見通しです。
5. こども園は、継続的に園児を確保できており、収支は安定した状況です。感染対策にも重点を置き、園児の安全を第一優先とし、教育保育活動を行いました。

◆経営判断指標に基づく学校法人経営状態の区分

日本私立学校振興・共済事業団では、学校法人の経営状態を指標により14区分に分類しています。2022年度決算についてこの指標による判定の結果、本学園は上位から3番目のA3ランクに分類され、財務状況は正常な状態にあります。



2023年度事業計画および予算の執行状況(2023.11現在)

2023年度の主な事業計画は下記のとおりです。予算は中長期財務計画をひとつの指標とし、事業計画に沿った予算申請、査定を経て編成しております。

《法人》

- 1) グローバルスクールの構築 小学校から中・高等学校へと進むグローバルスクールの国際バカロレア教育をふまえたカリキュラム、教員配置計画、新校舎建築を構築

《大学》

- 2) 国際教育学部開設初年度 円滑な運営(国際教育学部)
- 3) 新カリキュラム推進、本学独自の評価を計画・実施(看護学部)
- 4) 公認心理師養成課程の円滑な実施の準備(社会福祉学部)
- 5) 国際リハビリテーションコースの評価及び国際保健医療福祉プログラムの着実な発展(リハビリテーション学部)

《中・高等学校》

- 6) 教職員の資質向上および業務の効率化と多忙化の解消(教員研修等)
- 7) 基礎学力の定着、進路目標の実現(ICT環境整備等)

《中学校グローバルスクールコース》

- 8) 特徴ある教育の充実

《小学校》

- 9) 建学の精神及び教育理念に基づいた学校運営及び教育活動の実施
- 10) 国際バカロレア初等教育プログラム認定校(IB PYP)に向けて「聖隷IBモデル」の実現(こども園と連携)

《こども園》

- 11) 建学の精神の理解とキリスト教保育に基づいた教育・保育活動の実施

2023年度予算における学園の事業活動収支状況は、法人全体の収入が40億2985万円、支出が40億8086万円、収支差額は▲5101万円(事業活動収支差額▲1.3%)となっております。これらの主な要因として考えられるのは、小学校と中学校グローバルスクールコースの未完成による支出超過です。これらの収支状況は、学年進行に伴い児童生徒数増により改善が見込まれます。また、2023年度末には、グローバルスクールコースの為の新校舎建築について、進めていく計画としております。その他、エアコン入替、LED照明取替などの教育環境整備は、7～8月に工事を終え、トイレ改修やホール観覧席修理などは11月以降に行う予定です。今後、当初予算の検証と予算の有効活用を図り、新たに必要となる支出を精査し、第一次補正予算編成を行います。

聖隷学園ソフトボール場完成後の様子 **SOFTBALL**

聖隷学園ソフトボール場は、地域の皆様のご理解とご協力により、2023年3月に完成いたしました。この球場には、地域及び利用者の皆様への安全・安心対策として、人工芝（外野）、防砂ネット、防球ネットおよび光害対策仕様のLED夜間照明などを設置いたしました。

4月からは本格的に利用を開始し、本校女子ソフトボール部が平日には練習を、週末には対外試合を行っています。女子ソフトボール部は、2023年3月に鹿児島県で開催された全国選抜大会に静岡県代表として出場し、また6月の高校総体では県大会で準優勝を飾りました。監督、顧問、コーチ及び部員たちは一丸となり、全国出場を目指して部活動に日々励んでおります。引き続き、皆さまの応援をよろしくお願いいたします。



聖隷英会話スクール・テニススクールについて

聖隷学園は地域の皆様の生涯学習および生涯スポーツの貢献を目的として、「英会話スクール」および「テニススクール」を開講しております。年度途中の入会も随時受付しております。

聖隷英会話スクール・テニススクールの特長

- ① 低料金で受講が可能です。
英会話：1レッスン（90分）1,200円（1回当たりの料金）
テニススクール：月額3,000円（週1回）
- ② クラスは曜日・時間帯に合わせて開講しています。
- ③ 初回無料体験が可能です。※要事前申込
- ④ 年度途中からの入会も心配ありません。



※詳細は聖隷学園HPにてご確認ください。
定員に達している場合もあります。

お問い合わせ先：聖隷学園 法人事務局 企画部 TEL053-436-5311

聖隷学園

検索